

2019 年夏 スタディツアー報告

認定 NPO 法人地球市民の会

日程：2019 年 8 月 22 日～30 日（7 泊 8 日）

参加者：11 名（男性 5 名、女性 6 名）

場所：ミャンマー連邦共和国シャン州

① タンボジセンター

1999 年に運営を開始したタンボジセンター。将来の農村リーダーを育成するため寮を開設し、高校生たちが学校に通いながら循環型農業や畜産を学んでいます。タンボジセンターに寄宿する高校生たちと農作業、堆肥づくり、出荷準備を体験しました。また、ミャンマーの歌と踊り、参加者による日本の歌と踊りを披露しあうなどの文化交流も行いました。



今回はタンボジセンターで生活するミャンマー人高校生たちと一緒に SDGs ワークショップを行いました。子供たち自身が、自分たちがタンボジセンターに通うことでどんな SDGs を達成することができるのか、自分は何のためにタンボジで学んでいるのかを考えてもらいました。

日本人の視点では、子供たちは「教育を受けるため」という点を重視していると思っていましたが、子供たちの答えは様々でした。例えば、タンボジセンターは男も女も関係なくみんなが平等に協力して暮らしているから、男女平等を達成できる、という考え方や、循環型農業を学び、野菜や鶏・豚のお世話など生きるために必要な食べ物を作るという視点を重要視している子もいました。

これを聞いた参加した日本人大学生は、「これまで大学でこの国にはこんな支援が必要だと一方的に教わってきたけど、実際に支援を受ける人たちの話を聞くことで、その人たちが大切にしていることや本当に必要としているものは違うことがあるから、それが何かを考える必要があることに気づいた」と話してくれました。



また、地球市民の会の奨学金事業の支援者(さとおや)として、タンボジセンターの子どもを支援してくださっているさとおやさんも参加され、日頃支援してくださっているさとごと初対面を果たすことができました！（タンボジ奨学金）

さとおやさんは、「実際に子どもたちが一生懸命農作業に取り組む姿、規則正しく真面目に生活している姿、そしてキラキラとした笑顔が見れてとてもうれしかった。これからも諦めずに自分の夢に向かって頑張ってほしいです。また会いに来たい。」と話してくれました。



② インレー湖観光

タンボジセンターの近くにある、ミャンマーの一大観光地の一つ、インレー湖へも出かけました。地元市場を訪問し、葉巻の製法や機織りを実際に見学したり、寺院見学、インレー湖で起こっている環境問題、環境整備についての学習の機会になりました。



③ ヌワダマ村訪問

現在、環境保全活動を行っている村を訪問しました。地域の学校を見学し、村でのたい肥作りを実際に見学でき、日ごろ地球市民の会が村人と行っている植林体験にも参加できました。また、農民組織のリーダーを務める村人より村での取り組みについて話を聞くことができました。

村のリーダーの方のお家で豪華な昼食も頂きました！



④ レーエインゴン村トレッキング

平均標高が高い山岳州のシャン州。山の上の村まで 2 時間ほどトレッキングしました。途中、この地域に住むパオ族のお家でお昼ご飯休憩をしました。また、葉巻の葉の製造方法を村人の家にて見学することもできました！



⑤ パラヒタ(僧院)訪問

僧院が運営している子ども寮パラヒタを訪問しました。当日は、シャン州の地元 NGO の「TPA ミャンマー」による、子どもたちへのごみ問題研修に参加しました。地球市民の会の奨学金事業では、タンボジセンターの子ども他にも、このパラヒタに住んでいる子どもたちをも支援しています(シャン奨学金)。

パラヒタはミャンマー各地にありますが、私たちが支援しているパラヒタではおよそ 1000 人の子どもたちが暮らしています。家庭の事情で家で生活ができない幼い子供から、貧困から学校へ通えずパラヒタで勉強しながら生活している高校生まで様々です。



パラヒタで暮らす子どもたちと一緒に昼食を食べ、日本から持ってきたプレゼントなどを渡しました。



参加者感想(アンケートより抜粋)

- ・このツアーに参加して自分自身新たな目標や頑張ろうと思うことが見つかった。今後とも活動に参加していきたい。
- ・貧しい生活をしている大人や、子どもたちが頑張って生活している姿や私たちへのおもてなしが印象に残っている。
- ・普通のツアーや、個人旅行では行くことができない場所を訪問することができ満足。
- ・正直初めは親が勝手に申し込んでいてすごく嫌だったけど、最終日に近づくにつれていい思い出になった。
- ・日に日に一緒に行動するメンバーと仲良くなれてとてもうれしかった。人生で忘れたくない思い出になった。
- ・お金の寄付はたくさんできないけれど洋服の寄付など自分ができる寄付をしていきたい。
- ・タンボジセンターで水が足りないの井戸を掘りたいが資金が足りないということを聞いて寄付したいと思っている。
こどもたちみんな頑張っているのを助けてあげたい。
- ・さとおやになってミャンマーの子どもの教育支援をしたい。